

専門薬剤師認定制度と 薬剤師の卒後初期研修

日本病院薬剤師会理事
愛知県病院薬剤師会会長
名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長
山田 清文 Kiyofumi YAMADA



7月号の巻頭言の依頼を受け準備しているところですが、未曾有のCOVID-19パンデミックにより東京オリンピックは延期となり、安倍首相が今日にも緊急事態宣言をするという状況です。3月に予定されていた日本薬学会年会は誌上開催となり、6月の第3回Future Pharmacist Forumは中止が決定しました。GW明けからの第2期病院実習が実施できるかどうか、さらには9月下旬に名古屋で開催する予定の第30回日本医療薬学会年会をどうするか、毎日ニュースと睨めっこです。会員の皆様におかれましては、日本病院薬剤師会（以下、日病薬）病院薬学認定薬剤師や専門薬剤師の認定申請に必要な研修単位が取れず困っている方も多いと思います。

ご承知のように、本会では、薬剤師の専門性を生かしたより良質の医療を提供するという社会的要請に応えるため、高度な薬物療法等について知識・技術を備えた薬剤師を養成し、国民の保健・医療・福祉に貢献することを目的として専門薬剤師・認定薬剤師制度を制定しました。現在、がん、感染制御、精神科、妊婦・授乳婦、HIV感染症の5つの領域において、専門薬剤師・認定薬剤師の認定審査、認定試験および研修を行っています。しかし、重複も含めすべての領域の専門薬剤師・認定薬剤師を合わせても3,000名に足りません。日病薬の会員数を考えると、僅か6%の会員しか専門薬剤師資格を有していないことになります。県内に一人も専門薬剤師・認定薬剤師がいないという領域も複数あります。これでは専門薬剤師・認定薬剤師認定制度の目的を達成することは困難であり、専門薬剤師の社会的認知度が低いのも仕方ありません。質を担保しながら専門薬剤師の数を増やすことが今後の大きな課題です。因みに、2016年医師・歯科医師・薬剤師調査の概要（厚生労働省）によれば、専門医取得率は60.6%です。また、2018年までの米国の専門薬剤師の認定取得者は合計41,000名以上であり、認定取得率は76%と推定されます。

日本の専門医制度や米国の専門薬剤師制度は、卒前実習や卒後初期研修と密接に連携・接続しており、卒業してから専門医・専門薬剤師の認定を受け、各専門領域で活躍できるようになるまでのキャリアパスとその期間が明示されています。一方、日本では薬剤師の卒後初期研修制度の整備が遅れており、そのため卒業してから専門薬剤師の認定を取得するまでのキャリアパスとその期間が明確になっていません。このことが薬剤師の専門資格取得率が低いことの1つの要因と思われます。専門薬剤師制度とリンクした卒後初期研修制度を整備することにより、新人薬剤師のレベルの向上だけでなく、専門薬剤師認定制度の更なる発展と薬剤師の専門資格取得率の向上が期待できます。

COVID-19パンデミックのため、2019年とは別世界のような2020年度が始まりました。一日も早くCOVID-19が沈静化し、会員の皆様が安心して専門薬剤師研修会に参加できるようになることを祈念しています。